

品川区水辺利活用推進計画(素案)パブリックコメント ～ご意見と区の考え方～

実施期間:令和7年1月21日から令和7年2月18日まで

意見数:27名(31件)

※ご意見については、趣旨を損なわない範囲で要約しています。

※同趣旨のご意見はまとめて記載しています。

No.	ご意見(要旨)	区の考え方
1	遊歩道の北側(品川シーサイド駅)あたりにBBQや人が集まるような地域が活性化する施設が欲しい。	本計画では、運河沿いの護岸や水辺広場などの柔軟な利用や水辺空間のオープン化の推進を掲げております。「(P37)河川・運河のオープン化の推進⑪」頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます。
2	天王洲アイルから品川シーサイドにかけたエリアにスーパーマーケット、カフェ、書籍、飲食店、産婦人科、小児科など、ファミリー世帯に優しい施設を希望する。	まちづくりにおける水際の魅力向上を目的として、良質な水辺空間や歩行者ネットワークの創出をまちづくり計画等に取り入れるよう関係機関等と連携を図ってまいります。「(P38)まちづくり計画との連携」ご意見は今後の参考とさせていただきます。
3	アイルしながわに駅ビルや大型の商業施設を希望する。	アイルしながわの今後の在り方につきましては、人口動向や行政需要、地域ニーズ等を踏まえ、多角的な視点で検討してまいります。「(P27)旧東品川清掃作業所跡地と連携した水辺拠点の形成⑦」
4	品川シーサイド駅周辺の京浜運河沿いは地域活性化のための何かしらの計画はないのか？首都高羽田線更新工事が2028年度に完成予定なので、その高架下の活用や遊歩道の整備など検討願いたい。	国や東京都が管理する橋梁や、民間施設等のライトアップ実施・連携を促進してまいります。「(P33)水辺を活かしたライトアップ空間の充実⑥」また、運河沿いの護岸や水辺広場などの柔軟な利用について東京都や関係機関等と協議してまいります。「(P37)河川・運河のオープン化の推進⑪」今後、水辺利活用と連携できる取組については連携を検討してまいります。
5	天王洲シーフォートスクエア(第一ホテルの営業再開を含めて)の再活性化につなげて欲しい。	天王洲運河などの護岸や水辺広場などの柔軟な利用について東京都等、関係機関と協議してまいります。「(P37)河川・運河のオープン化の推進⑪」また、エリアマネジメント等が主体となった水辺利活用の取組を支援してまいります。「(P38)持続的かつ発展的な組織体制の検討⑬」
6	天王洲エリアについて、利便性のためのベドストリアン(歩行者)デッキや人道橋を整備して欲しい。	良質な水辺空間や歩行者ネットワークの創出については、関係機関等と連携を図ってまいります。「(P38)まちづくり計画との連携⑭」頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます。
7	運河側は観光客向けに水辺の空間を生かしたカフェ・レストラン・バー等をテナントとして誘致することが有効かと思う。	天王洲運河などの護岸や水辺広場などの柔軟な利用について東京都や関係機関等と協議してまいります。「(P37)河川・運河のオープン化の推進⑪」また、エリアマネジメント等が主体となった水辺利活用の取組を支援してまいります。「(P38)持続的かつ発展的な組織体制の検討⑬」

8	横浜市が運営する日本最大級の「横浜ベイサイドマリーナ」および隣接する「三井アウトレットパーク 横浜ベイサイド」を水辺空間のモデルケースとして品川区で是非現地を見学・視察していただきたい。	事業の推進にあたっては、他自治体の先行事例等を研究し、より良い水辺環境の充実に努めてまいります。
9	しながわ水族館とお台場を定期運航して欲しい。 住民アクセスとしての活用も検討して欲しい。	まちと水辺の回遊性を向上するため、公共交通との連携を図ってまいります。 「(P30)公共交通との連携」 また、民間事業者による定期航路の支援や日常的な交通手段としての舟運の可能性を検討してまいります。「(P34)水辺を回遊できる舟運の推進⑳、㉑」
10	ブランディングの強化や日常的に親しみがありかつ世界に誇れる水辺にすることを目標とすることが、より活きてくるのではないかと考える。 ブランディング強化として、皇居ランのような大々的に水辺エリアを活用したランニングやマラソン、ウォーキングイベントを開催してどうか？世界に誇れる水辺になると考える。 関連があると思われる施策 ・施策名 日常的な水辺利活用の推進 ・施策名 水辺に関する魅力の情報発信 ・施策名 まちと水辺を歩いて楽しめる取組の推進 ・施策名 水辺を活かしたライトアップ空間の充実	本計画では、リーディングプロジェクトを定め、各エリアにおいてブランディングを強化していくこととしています。「(P42～P48リーディングプロジェクトおよび各エリアにおける展開)」 頂いたご意見を参考に、より良い水辺環境の充実に努めてまいります。
11	品川区は気軽に出艇できる場所がなく、せっかく水辺が多い街なのにもったいない。 ぜひ現在の水辺にある公園を子供達が水に入って生物観察ができたり、ウォータースポーツが出しやすい浜辺かスロープの設置など、親水公園として整備してもらいたい。(できれば東品川海上公園の棧橋も一般開放して頂きたい。併せて子供など非力な人が落水しても1人で上がれる水中ハシゴを付けて頂きたい。)	東品川海上公園船着場での非動力船(SUP・カヌー等)の検証利用を通じて、管理・運用スキームを検討し、一般開放を目指すとともに、船着場利活用の推進や非動力船活動の定着化を図ってまいります。「(P26)日常的な水辺活用の推進⑤」 また、利用者や地域の子ども達に水辺の安全利用ルールの周知・啓発を図ってまいります。「(P37)舟運事業活性化に向けた運航ルール化⑧」
12	安全に釣りができてちゃんと釣れる釣り場が少ない。	区内では、京浜運河緑道公園、大井ふ頭中央海浜公園で釣りを行うことができます。 また、本計画では、運河沿いの護岸や水辺広場などの柔軟な利用や水辺空間のオープン化の推進を掲げております。「(P37)河川・運河のオープン化の推進⑪」 頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます。
13	目黒川沿いの橋や木々にライトアップがされているが、色味がキツかったり、カラーバランスがバラバラで残念。開発全体や、各区域でトータルにバランスを取るアートディレクションを推進して欲しい	水辺のにぎわい創出に向けた橋梁ライトアップの新たな演出を検討してまいります。「(P33)水辺を活かしたライトアップ空間の充実㉒」 頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます。
14	近年は観光船のエンジン音と拡声器の音がうるさく、花見どころでは無い。時間制限や日付制限など、騒音等への配慮を徹底して欲しい。	目黒川における船舶の航行ルールについて、目黒川航行マナー向上委員会と連携するとともにマナーの啓発活動を推進してまいります。「(P37)舟運事業活性化に向けた運航ルール化⑥」

15	親水拠点と防災拠点を強くリンクさせて、安全への取組というインフラのもと河川活用を行って欲しい。	東京消防庁等と合同で、職員の風水害時における技能向上を目的とした実践的な訓練の実施や、地域一体となり、総合治水対策や防災訓練等に取り組むことで、災害に強いまちづくりを進めるとともに水辺を利用する人たちの災害に対する意識の向上を図ってまいります。「(P22)区有舟船着場などの施設の適切な管理⑩」
16	水辺へのアクセスについて、内陸部から3つの水辺エリアへ出かけるには交通の利便性が低い。船着場の造成等も図られているが、そこに行き着く交通手段が少ない。グリーンモビリティ活用も含め日常的に移動手段が確保され、イベント以外でも住民が水辺回遊を楽しめる様に交通環境が整備されることを望む。	まちと水辺を快適に回遊できる環境の整備や旧東海道と天王洲アイルなどをつなぐ新たなモビリティの導入を検討するなど、公共交通との連携を図ってまいります。「(P30)公共交通との連携②、④」
17	目黒川・立会川および各運河の水質について、目黒川の高濃度酸素溶解水装置の設置等の対策は行われているが、水辺の命はその水であり格段の水質改善が望まれる。兩岸の回遊快適性確保に向けて護岸整備と併せ早急な対策をお願いしたい。	東京都や周辺区とも連携し、多角的な水質改善の取り組みを継続・強化することで河川や運河において水に親しむことのできる環境の創出を目指してまいります。「(P23)河川や運河の水質改善」
18	内陸部の観光名所と水辺開発エリアの一体的な魅力アピールについて、例えば御殿山と台場の関係を踏まえた歴史探訪の回遊など、知的好奇心を満たすイベントを検討してはどうか。水辺エリアの開発と合わせた存在感の再発信が望まれる。	水辺に特化した「水辺観光マップ」による水辺の魅力や多様なツールを活用した情報発信の在り方を検討し、品川区の水辺の魅力に関する情報発信を強化してまいります。「(P36)水辺に関する魅力の情報発信①、③」 頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます。
19	天王洲エリアと対岸の同時整備・開発について、しながわ水族館リニューアル計画を早急に進めて水運を整備し、天王洲エリアと船で繋がる利便性を確保してはどうか。例えば、水族館の利用客が新たに設置された天王洲のアウトレットモールに次々と来訪する等、相互に補完し合うことで目的の多様性に応えることが望まれる。	観光クルーズの実施・支援や日常的な交通手段としての舟運の可能性を検討するとともに回遊性を高める舟運事業の推進を図ってまいります。「(P34)水辺を回遊できる舟運の推進⑦、⑨」 また、しながわ水族館のリニューアルを契機として、周辺の観光資源も活用した企画の充実を図り、しながわ水族館を中心とした水辺拠点の形成を目指してまいります。「(P28)しながわ水族館を中心とした水辺拠点の形成⑩、⑫」
20	河川や運河の環境整備に向けて、東京都各局や近隣他区との調整を更に行い、計画実行に向けた優先度を住民のニーズをくみ上げて設定し、基本的な課題を一つ一つ解消して頂きたい。特に、利便性を軸に人々が集まり、その場を活用することで生まれる新たなニーズにも応えて行くことで、品川湊全体の賑わいが復活し、産業再生と観光振興が両立する、水辺の利活用ビジョンが完遂されることを強く望む。	東京都や周辺区とも連携し、水上の交通ネットワークを形成し回遊性を高めることで、舟運事業の推進を図ってまいります。また、舟運活性化に向けて民間事業者の取組拡大や利用者の利便性向上に資する施設等の環境を整えてまいります。「(P34)水辺を回遊できる舟運の推進⑨、⑫」 なお、本計画においては、隔年で実施している「品川区世論調査」を基に住民のニーズのくみ上げや目標設定を行っています。取組の効果や妥当性を客観的かつ定量的に提示し、実効性のある計画として推進してまいります。「(P51)計画の目標設定」
21	臨海部の公園(勝島運河エリア／大井ふ頭中央海浜公園(なぎさの森がある側)～大井ふ頭緑道公園～天王洲までのエリア／みなとが丘ふ頭公園エリア)は水辺に加え樹木が茂る場所も多く散歩をするだけでも気持ちがよい場所だが近隣住民以外にはあまり知られていないように思う。埋め立ての歴史等と併せてもっとアピールしてみてもどうか？臨海区なのが当区の特徴のひとつなので、品川区を区内外にアピールするため臨海部公園をもっと活用してはと考える。	頂いたご意見も参考とさせていただき、多様なツールを活用した情報発信の在り方を検討し、品川区の水辺の魅力に関する情報発信を強化してまいります。「(P36)水辺に関する魅力の情報発信③」

22	品川浦周辺では現在、再開発準備組合を設立し、水辺をいかしたまちづくりの検討を進めている。品川区にて現在策定中の本計画内容は、このまちづくりを後押しする計画として非常に重要と捉えている。引き続き、品川区との協働による水辺の魅力的づくりへの協力・支援をお願いしたい。	「品川浦周辺地区におけるまちづくりとの連携」として、官民連携による取組を推進してまいります。「(P38)まちづくり計画との連携⑫」
23	河川利用推進にあたって、騒音対策とゴミ対策をお願いしたい。特に桜の季節に朝から夜まで騒音が大きく頻度が多い事が問題。また、行政としてゴミ箱を設置しないのであれば、花見客や食物やその他を売る業者にごみ処分の義務付けを願う。	河川利用推進にあたっては、実務者レベルでの意見交換会や(仮称)水辺利活用推進会議を発足予定で、その中で課題の把握・改善等の共有を行い、地元団体等と協力しながら改善策を検討し、より良い水辺環境の充実に努めてまいります。「(P51)計画の評価・検証」
24	P9五反田駅から旧東海道あたりまでライトアップとあるが、五反田駅から目黒区境方面の橋梁は、区内で最も桜のボリュームを感じられる箇所の一つであり、日常の歩行者通行量も、五反田駅から旧東海道方面よりも多いにもかかわらず、ライトアップの記載がなく寂しい。P33今後の取組の中に、五反田駅から目黒区境にかけての、太鼓橋などの橋梁についてのライトアップを入れて頂きたい。	ご意見いただいた区間も含め、これまで整備したライトアップ施設を活用するとともに、新たなライトアップ等の演出や手法について検討してまいります。「(P33)水辺を活かしたライトアップ空間の充実」
25	P14右、水質改善③について、品川区DX推進基本方針2025素案で、デジタル活用による施策の推進がうたわれおり、本計画のP2はじめに、で官民連携により水辺利活用の取り組みを推進する中で、P36右、水辺利活用の効果の計測・情報共有のように、水質についても調査結果をリアルタイムでHP上で見られるようにして共有化して頂きたい。	水質改善の取組状況や水質の現状等については、区ホームページなどを活用し、情報を発信してまいります。「(P23)河川や運河の水質改善⑩」 なお、発信の手法についても今後検討してまいります。
26	P31～33水辺を魅力的につなげる、に関連して、水辺沿いの区道の無電柱化は、防災の観点だけでなく、魅力的な景観形成に大きく寄与すると思う。目黒川沿いは桜の名所でもあるので、目黒区と連携して、太鼓橋・国道1号間などを、地中化することを提案する。	「品川区無電柱化推進計画」に基づき、防災性の向上、安全・円滑な交通確保、景観形成等の観点から無電柱化整備を推進しています。 ご要望についても今後の参考にさせていただきます。
27	P34舟運は都と連携して積極的な取組をして頂いており、五反田駅から天王洲付近までの航路は、りんかい線に乗り換えたりしてお台場まで行ける魅力的なルートである。他の舟運ルートに乗り換えて、日の出までいけば、ゆりかもめから景色を楽しみながらお台場へ行ける。そうした航路を更に生かすために、お台場付近の施設、りんかい線・ゆりかもめ等との割引セット券を、関係機関と連携して構築し、QRコードなどで販売したりできると、舟運利用が増えて良いと思う。	東京都や周辺区とも連携し、水上の交通ネットワークを形成し回遊性を高めることで、舟運事業の推進を図ってまいります。また、舟運活性化に向けて民間事業者の取組拡大や利用者の利便性向上に資する施設等の環境を整えてまいります。「(P34)水辺を回遊できる舟運の推進⑰、⑱、㉑」
28	意見No.24、No.27などの目黒川関係は、P46目黒川の将来展開イメージにも位置づけて頂きたい。	将来展開イメージについては、主な取組の中から一部を抜粋し、記載しており、現計画のままとさせていただきます。なお、意見No.24、No.27につきましては、別項目で回答いたします。
29	水辺利用にあたり、現行法上の規制にかかる課題を整理してほしい。	水辺利活用の取組を行っていく中で、河川法や港湾法など現行法上の規制に関わる課題について整理を行ってまいります。

30	品川区の計画の重点は、「水辺のにぎわいを創出し、水辺とアートを核にした新たな水辺文化のあるエリア」にあるが、これは、これまでの屋形船経済圏をベースに、観光需要を喚起しようという取り組みだと理解すると、飲み屋街が、水上に拡大していくという計画のようにも見える。 より、インバウンドなど観光需要の取り込みを考えた時、海外観光客層を惹きつけるなにかが必要だと思う。 インバウンドの期待をするのであれば、設備投資財源に、観光税の導入を前提に考えるべきである。	本計画は、来訪者やインバウンドをターゲットとした都市ブランディングを広く展開することも想定しております。「(P36)水辺に関する魅力の情報発信」頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます、より良い水辺環境の充実に努めてまいります。
31	舟運を日常の交通手段とするためには、鉄道交通・自動車交通に対して、優位でないと交通網として機能しない。 品川区としては、五反田、鮫洲、天王洲などを発着場とすることで、鉄道駅との連携ができ、日常交通としての利便性の向上が期待される。 一方で、舟運の優位性は、水上パスにあり、対岸がどこか、直通で運行する行程短縮が重要な課題となる。 水上交通が優位性を保てるのは、品川区以外の自治体との交通航路がひらかれた場合で、一定程度の人数的な需要が求められる規模感が必要になる。 通期など、日常における交通手段とする場合、利便性の向上と重要の発掘が欠かせないと思うが、他の自治体との連携で、水上利用が進むよう期待する。	東京都や周辺区とも連携し、水上の交通ネットワークを形成し回遊性を高めることで、舟運事業の推進を図ってまいります。また、舟運活性化に向けて民間事業者の取組拡大や利用者の利便性向上に資する施設等の環境を整えてまいります。「(P34)水辺を回遊できる舟運の推進⑳、㉔、㉕」